芝浦工業大學
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Press Release

報道関係 各位

2022 年 9 月 20 日
芝浦工業大学

卒業生がダットサン 16 型セダン（1937 年）を寄贈
豊洲キャンパスにて 9 月 21 日より一般公開

*　　*　　*

芝浦工業大学（東京都江東区／学長 山田純）は、卒業生であり全日本ダットサン会会長の佐々木徳治郎氏より、ダットサン 16 型セダン（1937 年）の寄贈を受け、2022 年 9 月 21 日より豊洲キャンパス本部棟 1 階にて一般公開を開始します。

「ただ展示するだけでなく、動けるクルマを増やし、後世に残していきたい」という同氏の思いから、動態展示を行います。かつて小型乗用車の代名詞ともされたダットサンは、ガソリン車の基礎の基礎ともいえる構造をしており、理工学を学ぶ学生が機械遺産を肌で感じられる展示となることを期待します。

▲公開を予定しているダットサン 16 型セダン（1937 年）

■　展示車概要

車種	ダットサン 16 型セダン（1937 年）
製造	日産自動車
展示方法	動態展示
展示場所	芝浦工業大学豊洲キャンパス　本部棟 1 階 ※外部ガラス越しからでも見学が可能です

▲タイヤ

▲ダットサンの立体エンブレム

▲ハンドル

▲スピードメーター

■　ダットサン 16 型セダン（1937 年）について

ダットサン 16 型セダンは、2011 年に日本自動車殿堂歴史遺産車に選定されたダットサン 12 型フェートンをさらに熟成、改良し 1937 年 5 月に発表したものです。発売当時の価格は 2,100 円で、当時の物価は公務員の初任給は 75 円、喫茶店でのコーヒー一杯 10 銭、山手線初乗り運賃 5 銭であったことを考えると高価でした。またダットサン 16 型にはセダン以外にも、クーペ、フェートン、ロードスターのほか、トラック（16T）が用意され、当時の小型乗用車市場を席巻していました。

■　ダットサンの歴史

1911 年に橋本増治郎らによって創業された快進社自働車工場をルーツとするダット自動車製造（その後の日本産業→日産自動車）は、1931 年ダットソン（後にダットサンと改名）

10 型を製造し、1932 年から全国販売を始めました。戦前の自動車の需要は、自家用車に加え、1934 年頃から小型タクシーの営業が認可されたこともあり、次第に増大していきました。ダットサンも初期モデルである 1932 年の 10 型から始まり、1934 年に日産自動車に生産が移った後は、横浜工場の完成で生産台数が飛躍的に伸び、1932 年には 150 台でしたが 1937 年には 8,353 台を記録しました。ダットサンは 1932 年の 11 型、1933 年の 12 型と毎年のように改良が加えられ、1938 年の 17 型まで続いていきますが、日中戦争が勃発し、乗用車の製造が事実上禁止されたことを受けて戦前の生産は 17 型で終わりました。

■　ダットサンの名前の由来

ダットサンの DAT とは、資金協力者である田(でん)健治郎（D)、青山禄郎（A)、竹内明太郎（T）の 3 名を記念するために、そのイニシャルをとってつくられたものと言われています。またダットソンがダットサンに変わるのは、当時海外では開発者や設計者の下に「その息子（SON)」という単語をつけていたことを踏襲して DAT の SON として DATSON にし、SON は「損」につながるということで「SUN（太陽)」に変えたとされています。また勢いのよさやスピードの速さを表す「脱兎（ダット）のごとく」にも結びつけたとも言われており、ボンネット上のマスコットがウサギをモチーフにしていることや、社章が太陽と思われるデザインで構成されているのもそうした流れがあると考えられます。

芝浦工業大学とは

工学部／システム理工学部／デザイン工学部／建築学部／大学院理工学研究科

https://www.shibaura-it.ac.jp/

日本屈指の海外学生派遣数を誇るグローバル教育と、多くの学生が参画する産学連携の研究活動が特長の理工系大学です。東京都とさいたま市に 2 つのキャンパス(豊洲、大宮)、
4 学部 1 研究科を有し、約 9 千人の学生と約 300 人の専任教員が所属。創立 100 周年を迎える 2027 年にはアジア工科系大学トップ 10 を目指し、教育･研究･社会貢献に取り組んでいます。

本件に関する問い合わせ先
学校法人 芝浦工業大学　広報連携推進部企画広報課　柴田
TEL 03-5859-7070　E-mail koho@ow.shibaura-it.ac.jp

以上